



町長日誌 No.24

町長日誌の第24号です。町長が日頃町民の皆さんと話し合ったことや色々な出来事を町長自ら書いたものです。町民皆さんのご意見・ご要望・ご感想をお待ちしています。

7月19日(火) PM3:00

「雨が降って欲しい」、牧草地も庭も自家菜園もパークゴルフ場も皆願っています。しかし、昆布干しやホタテ貝柱作りにはこの天候はきっと良いのだと思います。つくづく世の中すべてが旨く行く様にならないものだなあと感じます。6月30日から7月14日まで、札幌・東京へと3度往復をしました。国は間もなく来年度の予算案作りに入るため、6月から7月にかけて全国の都道府県や市町村の首長・議会議長が「18年度事業の要望書」を手に携え各省庁や国会議員のところを汗を拭き拭き回ります。局長さん課長さんの机の上には要望書の山が出来ています。お願いして回る我々も大変ですが、要請を整理して予算を組む担当者もクールビズとはいえ室温28℃の中、大変なご苦労と何時もの事ですが思った次第です。

6月23日(木)

西紋5市町村で道立紋別病院の産婦人科存続のため、医師派遣をしている旭川医大と道庁に要請をしてみました。旭川医大の病院長は『道立病院なのだから道立の札幌医大が医師を出すべきだ』、道は『旭川医大にお願いするしかない、札幌医大には産婦人科の医者がいない』と言います。道議会では『本当に医療の問題は難しい、こんなに医者がいないとは思わなかった』、道庁には2度お伺いしていますが一度も知事は会ってくれません。確かに今まで行政と医学会との間には大きな垣根があり、互いに介入できない部分でありました。しかし私たちは道民であり道が経営している病院の問題なのに、4万の人口を有する西紋地域の医療に対するきちんとした回答が無く、遠軽や名寄に行ってくださいというのは、ちょっと違うと思います。ちなみに、春の医大の医局人事で紋別病院から産婦人科医師1名が遠軽厚生病院へ、循環器科医師1名が名寄市立病院へと異動になりました。勿論、紋別病院への補充はありません。この地域の医療を北海道は真剣に考えているのか？理解に苦しみます。

7月5日(火)

昨日から西紋開発期成会（西紋5市町村の首長・議長で構成して国・道に事業予算を要望していく組織）の来年度要望行動が始まり札幌駅裏にある合同庁舎に向かう途中で助役から『今年度の普通交付税額が内定して、予算より若干多かった、一安心です』との電話がありました。最終確定は7月末ですが、予算割れしなくて本当に良かったです。そのせいもあってか今年の要望行動には特に力が入りました。

7月9日(土)~10日(日)

今年もまた走ってしまいました。雄武町から斜里町までの212kmを走る「オホーツクサイクリング」に参加し、お蔭様で完走しました。昨年初参加でかなり辛い思いをしながら走りましたが、今回は2回目ということでペース配分も出来、涼しいこともあり、ちょっぴりですが昨年よりは体が楽でした。網走支庁・開発建設部からも大勢参加していましたので『ここで止めては、これからの予算に影響する』と一人心中で自分を叱咤しながら雨降る斜里町にゴールしました。今回も小泉さん吉水さんはじめ興部から参加された皆さんお疲れ様でした。また、出迎いの用意をいただいた皆さんに、感謝とお礼を申し上げます。ありがとうございました。

昼間の暑さと対照的に夜涼しい今年の夏、風邪を引かぬようご自愛ください。では、また。



町長のメールアドレスは、mayor@town.okoppe.hokkaido.jpです。

お便りをいただく場合は、適当な便箋等を封筒など（使い古しのもので構いません）に入れ、封をして、町役場窓口か、お知り合いの町職員にお渡し願います。町長のみ開封とし、お返事をさせていただきます。不明な点は、総務課総務厚生係まで。TEL 2・2131です。